

昭和 中 愛

【学校教育目標】

「自ら学び 真剣に働く 心豊かで たくましい生徒」 10月号 令和5年10月2日(月)

校訓

「一所懸命」

あいさつ日本一 昭和 中



【昭和 中 マスコットキャラクター】
「しよ〜みい」

たくましさとは・・・

文責 校長 遠井久夫

— 未来を生き抜く子供たちへ、大人からのエールは・・・？ —

二学期も一ヶ月が過ぎ、残暑厳しい中ですが、生徒は、10月6日に控えた、校内音楽会に向け、どの学級も合唱練習に励んでいます。また、インフルエンザの蔓延により参加も心配されましたが、先週は、新人戦の大会が開催され、一、二年生が素晴らしい活躍を見せてくれました。結果につきましては、特別号で紹介したいと思います。

さて今月は、相田みつをさんの本の抜粋を掲載しました。考えさせられる文章ですが子育ての参考にしていただけたら幸いです。

「ラクしてカッコよければ しあわせか」

ある親が息子の就職のことでわたしのところへきました。以下はその親の言い分。「うちの息子は一人息子で、よそ様の子と違ひまして大事に育てましたので、あんまり骨の折れることや、身体を荒っぽく使う仕事には向かないと思うのです。それに小さな会社や工場ですといつ倒産するかわからず不安ですから、できれば倒産のない大きな会社等のようなところが一番適切かと思うのですが、相田さんのお顔でどこか安定したい職場をお世話していただければと思ひまして・・・」・・・「ほう、ほう、ほう」聞いている私の顔がほてるような思ひでしたが、これが世の親たちの本音かもしれません。話を要約すると、1. わが子にはなるべく骨を折らせたくない。その反対に他人の子ならいくら骨折してもかまわぬ。2. わが子には一生安楽な生活をさせたい。途中で倒産なんていう不安な思ひをさせたくない。他人の子ならかまわぬ。要するに、自分の子だけは、ラクして、いっぱいお金もらって、カッコいい生活させたい。他人の子はどうでも。なんとも身勝手な話ですが、これがどうやら世間一般の親たちの平均のようです。この親の心の底には「親の苦勞は子にさせたくない」というせつない気持ちがあるわけで一概に否定できませんが、こういう親のエゴが、結果的には子供自身をみんなダメにしている、とわたしは断言いたします。自分の子さえ幸せならば他人の子はどうなってもいい、この親の自分勝手。その親の姿勢がそっくりそのまま子供に移って、自己中心的な、わがままなブレーキのかかない現代っ子を作っているのです。つまり、親そっくりの子供になっているわけです。そこでわたしは世の親たちへ次のことを訴えます。

①ラクしてかっこよければしあわせか、ということ。逆に骨を折ることは不幸かということ。人間のほんとうの幸せとはいったいなんなのだと、ということ。わたしは、人間のほんとうの幸せとは「**充実感のある生き方**」だと思っています。骨を折らない、つまり、努力を必要としない仕事に充実感はありません。山登りに生きがいを感じるの、山登りが大変だからです。ラクじゃないからです。ラクじゃないから充実感があるのです。

②ごく普通の順序でゆく限り、子供は親亡きあと一人で生きてゆく、ということ。親亡きあとどんな苦勞にぶつかるかわからぬ、ということ。

③子供は将来を生きる、ということ。そして将来のことは何人にも予想がつかぬ、ということ。

終戦後のあの混乱期に、30数年後の今日の世の中を誰が予想できたでしょう。私自身、敗戦で軍隊から帰ってきた当時、全家庭にテレビや自動車のある生活など夢にも想像できませんでした。いわんやお月さまに人間がゆくなんてことを。それと同じでわが子が一人前の大人になって活躍しなければならぬ20年、30年先の世の中がどう変わってゆくか？予想できるものは一人もいないのです。つまり、どう変わるかわからない世の中を生きてゆく、それが子供です。したがって将来、子供がどんな苦難に遭遇するかはまったく予想できぬということ。わが子には苦勞させたくないといくら思っても、親亡き後、親よりも苦勞することがいっぱいあるかもしれない、そのように腹をすえて子供の将来を見透かすべきです。そこで言えることは、たとえ、親より苦勞することがあっても、親よりもたくましく、親よりも根張り強く、人生を生きぬいてゆく力と知恵とを子供に与えておく、それが一番正しい親の愛情であり、義務であるとわたしは思ひます。

そのためにはどうしたらいいか。結論から先に言ひます。負ける練習、恥をさらす練習、カッコの悪い体験を、できるだけ多く子供にさせておくことです。人間の身体は使ったところが強くなります。これは至極単純な原理です。その反対、使わぬところはどんどん弱くなります。現代っ子にとって一番弱いところはどこか？負けに耐える心、恥に耐える心、カッコ悪さに耐える心です。負けるということは自分の思ひが通らぬことです。自分の思ひが通らぬ時、子供は次の二つのうち、どちらか1つの行動をとります。

1. じつとがまんして自分の欲望にブレーキをかける。

2. だだをこねて思いを通す。

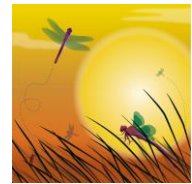
世の親は大体において後者で、大事に大事にだだをこねさせて子供の思いをみんな通させる。年寄りのいる家ではそれに拍車がかかる。いわゆる過保護様々です。つまり、子供がガマンをする体験、ガマンをする機会を親自身の手でみんな取り上げてしまうのです。そしてわずかなことにもガマンのできない、プレーキのきかない、我がまま放題な子供を作り上げておいて、しかもその子に<手を焼いて>いるというのが大方の現状です。長い人生には自分の思いが通らぬ場合がたくさんあります。思うようにならぬほうがはるかに多いのが人生です。それならば人生的の思うようにならぬ方に合わせるべきです。思うようにならぬそれは、ことばを代えれば負けることです。カッコよく勝つことではありません。自分の思い通りカッコよく勝つことは人生ではごくまれです。だから人生的を確率の少ない<勝つこと>に合わせないで、確率の多い<負ける>方に合わせておくことです。それが負ける練習です。小さい時から負ける練習をさせておけば、成人してから負けに強い人間になれます。失敗してもへこたれないたくましい人間になれるはずです。人生におけるどんな波風、どんな雪辱にも堪えて、まっすぐに自分の道を歩いてゆけるような、しっかりとした「いのちの根」を作っておいてやる、それが本当の愛情だと思います。ラクしてカッコいいこと、つまり、勝つことばかり考えて、過保護に育てられた子供は、その分だけ「いのちの根」が浅く、親亡き後の本人の負担が大きいことを知るべきです。

相田みつを「にんげんだもの」より

日	曜	10月の行事予定
1	日	
2	月	巡回講演（能楽）
3	火	合唱朝会
4	水	学習の日 陸上部が加須小学校児童の指導
5	木	
6	金	校内音楽会
7	土	
8	日	第69回加須地域体育祭
9	月	スポーツの日
10	火	学習の日 教育支援担当訪問
11	水	
12	木	テスト日課 3年実力テスト
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	全校朝会 北埼玉地区駅伝大会 栄養教諭による学校訪問⑤（1年）
18	水	学習の日
19	木	専門委員会
20	金	進路説明会 部活動中止
21	土	加須南小学校運動会
22	日	
23	月	テスト日課 中間テスト
24	火	
25	水	学習の日 生徒会選挙
26	木	2年職場体験学習 第1回学校保健委員会
27	金	2年職場体験学習
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	生徒朝会 1年交通安全教室⑤⑥

10月の生活目標

- ・元氣よく目を見てあいさつをしよう
- ・手指消毒をしっかりとし、生活のリズムを整えよう



北埼玉地区中学校英語弁論大会

9月8日（金）、3年4組 小澤 紬季さんが、学校を代表して、北埼玉地区中学校英語弁論大会に参加しました。会場は大利根文化・学習センターで行われ、題名「Opening Our Hearts」を英語で表現力豊かに発表してくれました。小澤さん、ありがとうございました。



吹奏楽部 加須地区体育祭で演奏披露

9月10日（日）、加須小学校で行われた第62回加須地区体育祭に、吹奏楽部が参加し、素晴らしい演奏を披露してくれました。体育祭に参加していた人々も大変喜んでいました。吹奏楽部の皆さん、お疲れ様でした。



